

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 •

全五冊曲亭主人編

大二三



南總里見八大傳第九輯

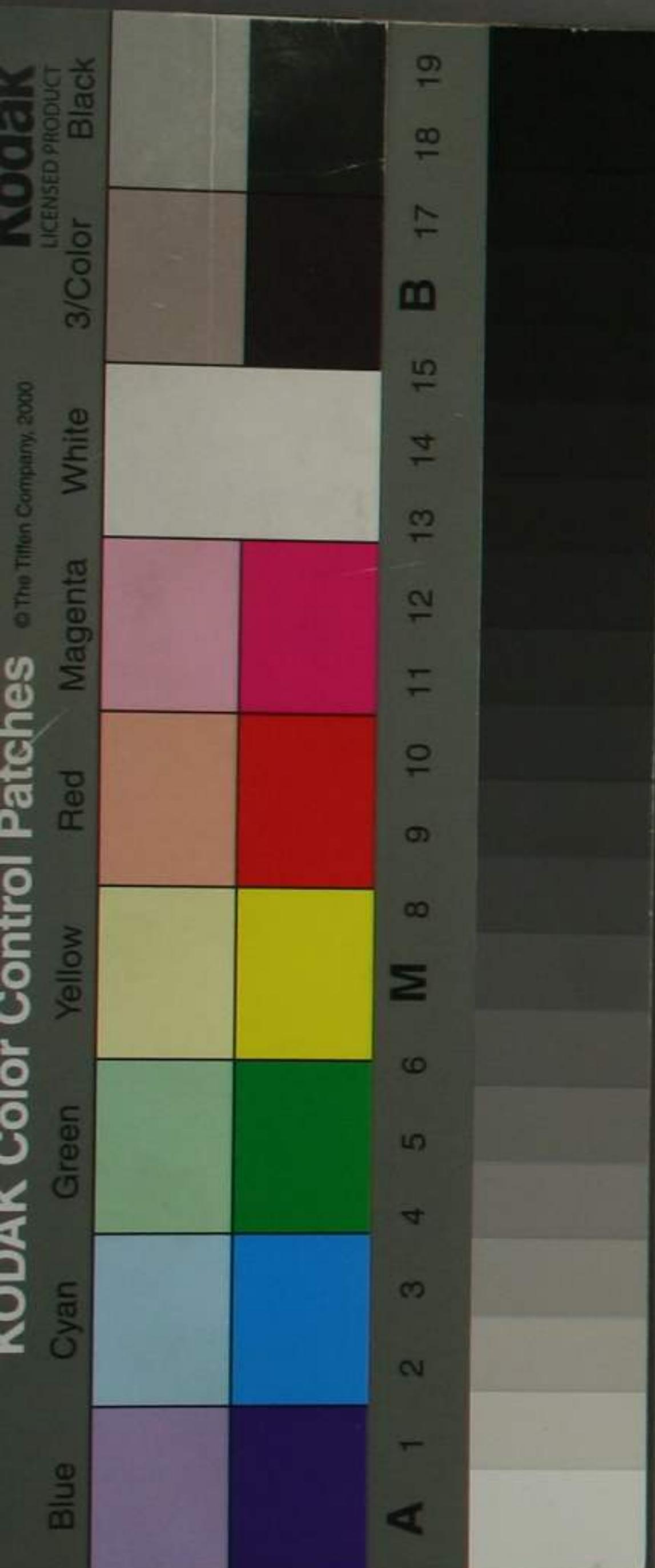
下

十三之古卷二十章

柳川主畫

丁子屋平具德

校



曲亭翁編次八次

地スニニテ



# 大傳第九

柳川重信画

十三年九月丁酉

南無阿彌陀佛

あひゆく。むく。まとう。あひ。まち。みさ。まもひ。うぶ。あまく。  
有人云。在廿日里見氏ハ安房ヲ起す。後は上總ニ略。又下總モ。軍令討従。され  
られ。あれ。あれ。をみて。みかみて。ち。のま。上總。あり。まもひ。  
有邊が女房ヘ小國。あは。其妻文。アセ。也。あは。今も世人。進益。安房の里見。と。まある。お。豊。八。達。

天白の天平十二年十二月丙戌安房國を領上總國よりせり。かくて孝謙天皇の天平寶字元年五月乙卯安房國在す。依て令章を下す。書紀及續紀よんすう是より後安房と上總と三國よる論す。とが主安房の初の惣國也。當田時里見氏の威徳と思料する。土人相行ひてその封域といふ者二百二十七萬石と云ひ。縦走リ。第五卷。安房の附錄よ。是と否とも。里見九代記による。里見の領地。義光も。義弘へ付。安房上總並み下總平國。是よ加至小三津四十餘ヶ。此彼を合して。七十萬石ある。尚充あらず。土人の口碑。傳。所れ何御也。本つねに。小姓といふ。續七十萬石を充む。大諸侯と稱す。足り。然ばに。徧小姓。安房をり。里見の二字不冠を。今とて又房總と唱へ。もと肩三津四十餘ヶ。因て南總とよぶ。その地廣大は相手を。唯安房の。限より。

天保七年丙申秋九月下浣立冬之後の一日

蓑笠漁隱

南總里見八大傳第九輯下套上標目錄  
九集第  
三版

卷第十六	卷第十五	卷第十三	卷第十一
第百廿四回	第百九十四回	第百七十四回	第百十五回
十八 第百廿五回 八大傳第九輯下套上標目錄行	十七 第百廿四回 八大傳第九輯下套上標目錄行	十六 第百廿四回 八大傳第九輯下套上標目錄行	之四 第百十五回 八大傳第九輯下套上標目錄行

卷第十六

第百廿四回

十八  
第百廿五回  
八大傳第九輯下套上標目錄行

卷第十七

第百廿四回

十八  
第百廿五回  
八大傳第九輯下套上標目錄行

卷第十八

第百廿四回

十八  
第百廿五回  
八大傳第九輯下套上標目錄行

天資神祐  
守師命一星額廟遺骨  
讓勳功親兵備赴法會  
大江親兵備破麻惠夷賊  
後賞祿一安房侯溫寒御  
小乘樓一僕謁故主  
送殘捨病僧告不禍鬼  
逆足寺德用與二士謀  
退職院未得名詮諫不得

卷第十五

第百九十四回

之四  
第百十五回  
八大傳第九輯下套上標目錄行

卷第十三

第百七十四回

之四  
第百十五回  
八大傳第九輯下套上標目錄行

卷第十一

第百十五回

之四  
第百十五回  
八大傳第九輯下套上標目錄行

問津犬童惱風濤  
兩國河原南客逢北人  
千千三略師第屠毒蠶  
盡無談親兵備促扁舟  
傳命令使臣正征伐  
獻葉翁士價前元  
大津犬童惱風濤  
兩國河原南客逢北人  
千千三略師第屠毒蠶  
盡無談親兵備促扁舟  
傳命令使臣正征伐  
獻葉翁士價前元







雄

一拳摟郢豬雙手  
駁物折譙遜不貞  
誇其名轟世界

賀大田拂順

心血成良藥眼前救「雄悲風若落」  
處不料得袖童 賀沼蘋

大田拂順





經勲復猛狗紅淚滿羅裳花亂官

山雨落英寒八方

賈里見

獵銳却成古事法衣長避俗歷遊

三十年終絕八行玉

賈大師

右拙賈一十七首四題本韓簡端以  
數於四方君子雅鑒

琴籟蟬史

南總里見八大傳第九輯卷十三之十四

二十七三

東都曲亭主人編次

第百六回 賢士重犬士知石

政木所筆て政木と詳示

再說大江親兵備仁八尺有足鐵扇等河鯉佐太郎孝嗣の最も劇多毀り  
刃先度流し相挂て挑戦至妙の武藝より孝嗣和術と盡せど毫も透かさず  
久を憶ど聲と被る空や少年姑且其ね向てあと叫びて身で跳らうと周急の外一退  
久喘じ定め刀を釋ひ鉾より親兵備荒介とも笑ふ優も和慶の力筋何  
よき雌雄と決せると向へえむわがとよ。和慶の爲体人と揚げ貨財と奉集ふ驕  
児も其は空是向馬前徑立事とぞ又那麻生の松豫の亞流うとをひき。掣り果  
たま候や。實力允庸もとぞ矢庭と我身と撞机と投石と争ひ草の勢ひ世よき

あしたの功とりて寵用せられ。上總を守る館山の城をも隨預りて。又故の事々幾日かお  
君の祀覲妙見を自餘の大吉在處を索き。一個も遠きを領て來ふと。猛可少の暇を  
賜ひぬ我も亦同因果の義兄弟は先もと單國主より仕ひと本意をもどと思ひふ。  
一説より反を領掌をまつて。併當て。一個も俱せ。そ投方へとく赴て程乎則一日の衣す  
を。けつも這頭へ未よけれ舊に上野の松蔭る。茶店より一霎時立寄て路の疲勞を  
憩ひ。ありゆれ思ひ。お茶店の老嫗所坐を伺ひ。老嫗の答ひ詳めて。又。河内城内の  
機密を送り告げ。然ども酒家富山より伏姫神の示現より和殿親子の恩讐  
を。義と。夕起こと。おうこうて。今入老嫗より所。よく。其事。一夕酒家。宿地。思。那  
孝嗣。酒家。富山より高畠の對陣。す道筋。毛野。们。感嘆。す。刀を交せ。相別化。体を修  
学。子儀。一の長人們。誣られ。罪を。罪。命を。殞。と。次第。よ。宿餘。あり。非。我。這身。

村上義定妻鹿孫三郎。ことを。の。及ぶ。加旗武。執事。精妙。穀。と。數。す。の。肩。子。す。  
我。大刀風。を。扇。だ。及。す。神。御。奇。特。の。み。上。よ。奇。ハ。和殿の。惣表。す。一道。光明赫奕。と。内。全  
々。散徹。と。口。我。眼。と。遮。す。か。宝。朽。惜。し。腕兒。在。大刀筋。安。定。を。ば。心。奮。ん  
証。し。ら。よ。急。ハ。刀。で。歌。や。う。高。す。和殿。ハ。人倫。を。ば。猶。我。死。と。枚。い。箇。の。刀。自。の。等  
類。欽。權。者。の。化。現。欽。孤。程。欽。怪。欽。惑。い。を。解。た。ね。甚。麼。を。と。向。へ。親。兵。侍。も。頷。等。  
あ。疑。ひ。鶴。と。み。酒。家。ハ。状。怪。変。化。す。ま。寔。ヒ。と。諦。共。和殿。等。へ。大。那。連。不。定。の  
孤。客。這。頭。と。遊。歷。を。め。り。我。第。ひ。ま。れ。若。酒。家。ハ。和殿。と。相。識。ま。毛。野。道。節。の。  
七。大。は。と。同。因。果。の。義。根。兄。弟。は。先。も。と。單。國。主。より。仕。ひ。と。本。意。を。も。ど。と思。ひ。ふ。  
四。秋。す。伏。姫。神。の。擁。護。より。安。房。の。富。山。の。神。富。岩。窟。の。人。と。成。り。や。甲。斐。あ。す。心。禱。  
え。身。長。え。見。と。像。く。大。人。備。す。文。字。底。無。聲。す。猶。神。す。傍。接。せ。れ。や。然。が。う。の。す。卓。半  
多。な。あ。れ。が。料。を。も。い。毎。比。世。復。出。危。時。か。國。主。御。父。子。の。奉。為。ふ。寇。を。ま。せ。敵。を。降。

ひとす。其死と極ひ多くも切く首級を奪命す。既佛場へ差し入る者亦武士の情すと尋思とあつ、遠くに至る處茶店を立去り。前面岡より木と相思が既に刑伐の折と解くと和殿と布草の上に身居らず、身邊大実檢使を並び大刀合ひの武士より他們の老嫗より知る足岡の城の頭人根角谷中二頭鹿鹿と穴栗車を作りて猪をも。上の餘袋十個の雜兵四下に守護。車非三席で被書を後方へ連び岡下の樹林隙き成年やねん件の樹蔭下身を潜して事の容子を偷看在り。観目不樂した和殿の終焉白刃既に頭上に挂められを裏れ脛冷て極まる微も折らず。幸ひまことに赴路す。長屋家の老夫人當所へ發向の手えある。やや轎子を寄りらむ。遂に和殿と極ひ合ひ。理非明辨の小説精妙。舊奇雀躍。愉快の光景。是時宜子と鹿廉門へ咸退た。去て那人刀自ハ西刀と和殿は合ひてゆひ。觀之怪しや幻也。其里へ移る。假大刀自最ヨリ。

ナ伴當と瞬息同在する。車の奇瑰と曾未見て止む。よほ編観一か和殿の酷く驚ひ。従と單語す。且淡草の方へと快走をまやれ。程よ酒家。情慾裏す。那孝嗣の智勇の健雄も野道筋と相識し。親子の忠誠。義甲非斐也。僅よ死罪を免れ。萍跡浮浪の人となり。我君侯は苦心まづ。里見の象臣と做そ。莫率と倍々懲りがん。余も本車と知らと銚く。と云す思せ。和殿は生まう。同道す。情地は幸く。这里子在り。像ひや。計裏く。聊試す。けよ。猶凡庸の浪人。我懷き財。豪農と相。正氣也。發を。存す。一所不往の。浪の其身。一文の般盤。纏ふれ。と聲て。其念せ。酒家を路す。倒れる。病者。と。博。意ひ。喫活。不屈。介保。其と。桂丸。清白仁慈の心操。群す。と。知り。其妻の利鉢と。持。と。陽膜。も。不。存す。投げ。まよ。跣け。倒れる。と。提尾。め。と。駆け。走。金。大刀筋都と法稱す。

一人當千の勇段をもあらず。其勢の程を知る上へ里見殿へ吸引せん外と求るところと立意  
東と告げん。慰しに孝嗣深く感佩す。鎧と大ききよ。四下をえり聲と情ゆ。原来  
アヨ。吸氣たる事多也。和殿。大阪伊那七勇士と宿因ゆ。大江生てわはよ。まみ耶人をハ義兄ハ名あらず。かど。  
高畠の對陣。大塚生多虜。名和殿の上ひ。知らひ。ト神の擁護。又靈山寺。  
北齊衆と。南夏の合。奇特。觀面。今。姦九歳の經年。人よ。誰。參。身長三丈。心術。さへ大人  
備て。智略。勇力。武藝。云々。現神。乞。馬。僕。今。昔。之。雖。上。も。之。而。神靈。才。根。天刃筋。  
予。ぶ。敵。か。元。も。然。と。ひ。方。僅。刃。と。合。セ。折。奇。と。之。和殿の懷。う。先。を。發。ち。參。未。然。と。我  
面。と。接。け。ハ。少。是。所。以。あ。べ。一。よ。み。を。親。兵。衛。え。う。听。テ。多。疑。生。解。易。リ。我。黨。黒。る。  
ハ。大。士。の。自然。と。獲。す。靈玉。ア。ハ。顯。の。玉。毎。ニ。仁。義。礼。智。忠。信。孝。悌。シ。ム。丁。文。  
一。字。す。ア。天。造。地。作。の。空。且。ニ。重。い。ハ。厄。と。釋。ハ。歸。き。と。征。モ。第。一。の。身。ハ。衛。丸。ニ。優。る。  
あ。た。ま。就。中。我。持。玉。未。行。一。字。あ。仁。名。告。ま。ル。丸。東。裏。不。富。山。ニ。折。獨。詰。山。城。み。赴。ク。逆。

かと今日殊々温ぬれり哉下衣の一箇脱了裏て腰と纏之内。且那里立す。  
あをまゆる。破綻をや。うとお嗣えす。まえ又ゆく。好意に知己の隨意せざん  
や。と飲び答え。共信す件の茶店よ。まくそれへ。空處の茶柴姫ひ立も。何地でなれ  
老嫗の在す。そめがと。居り外よ亦想入。死家へ。一寒季時等あらかず本末と  
思ふ。兩個の後生の。儘裏百今折よ。身に力せ段筆と披遠り。外視と憚る  
目柴す。傷よ茶と汲みうち喫す。親兵衛の腰と附す。袱裏とも被り。衣を拿す  
牛す。老嫗。す。奉と。遞與せ。老嫗へ受合まつち戴にて。上に龍衣被り。身は表  
されど。老嫗のまき還りねば。至儘棄児と尾と掛す。親兵衛と俱よ想ひ在り  
登時。大江親兵衛の老嫗す。向ひ。嚮す。漏一も。身の禍福。伏姫。伏助  
撫育。并す。愧雪。老夫。帰宅す。單節。母子の事及七犬士の事。また。裏手。娘神す。  
られ。而す。随す。一事の省。且里見殿。父子の賢明。四家尤諸勇臣の行狀。得失

あち。君事。頬玉まく。必要と廣。繁をせん。箇様々と。悄語。示せ。老嫗。聞  
だ。毎運す。感嘆の聲を。断む。憶す。太息と。吻す。運愛す。詩才の孝義英才。大  
事の名。在下。君父の。與。大江生。恨す。不。傳事。がと。悟す。更。不。捨。思ひ。あ。引。今又。父  
大江和殿。又。避近す。自身の。資助。す。自。過。世。あ。て。牧是。す。奇へ。従。まく。八個。捕ひ。年。  
集。而。傑達。宿縁。あ。君臣の。義。結。せ。る。里見殿。兩様。徳澤仁政。御。内。名將。す。義。じ。一。身。と。只。官。嘆。實。あ。け。親兵衛。危。か。聲。と。胸。す。高  
志。夙。ゆ。り。の。如。我。君。侯。の。賢。と。招。け。土。卒。り。う。と。老。侯。の。兒。時。う。堂。時。十。原。照。丈。と。喰  
做。を。家臣。と。廻。八。州。へ。遣。て。奮。勇。金。信。の。士。族。を。招。け。ひ。老。候。あ。折。大。塙。大。飼。大。田。へ。總。す  
過。世。の。母。妻。一。身。と。耕。牛。時。耕。ま。直。の。食。と。と。八。房。の。大。の。事。金。碗。入。道。大。の。事。及  
親。兵。衛。が。二。朝。の。義。侠。横。毛。の。事。ま。も。詞。意。追。く。解。示。若。者。解。い。と。慶。嘆。す。

造化の  
されども偉矣。

香島　　目今八徒ひかへと答る折、是然と遠方を殺す者あり。此は是別人の事也。遠  
茶店の老嫗うけられへま嗣、引渡して。サ段筆貢をやうと推移す。松ノ久々親兵衛が、  
見ゆ含笑と揖讓して。おとて郎君前面同ち、剛才か否もせ。次姫家所要りと聞か。宿所へまつ  
る。程店うち空て伊イ小舟とをもひれを連も茶を院へ。欲先拂りよきわざとし、  
ケ吹管合抗す。埋火櫻と吹きせべ。鬼木の煙立升る。勢の難色の白菊の衰ひ易た風情  
す。老嫗と子嗣はくと相つ親兵衛と袂と抜く。大江主他とえりて、那老眼、面點、ハ御向  
利き心氣と致り。假大刀自らも首く。倘ま人よめや。どうも見合ひて指す。示せば。親兵衛も稍  
心つて現ひ。聲音も毫毛錯れも寔ふ似たり。故重をもと奇へと清語く聲のすえ。  
兎老嫗も徐々入つて、詠達する。前回國から河鯉主の危に命と極命の  
意。別人うそぞ奴家は竹とらみ奉嗣の親兵衛の胸て潰つて、と云ふ。呆りや。身も長根  
存す。老嫗へこまと微笑へて。大江主へ遣際の初對面である。同知をぬぬり理り。河鯉

腋子の名をなす。和木でなく、奴家の政木で候。かと名告れど、孝嗣を名ふ。作成政木  
お誰さんと説き同へ我を近づけ。登見屋敷と申す。原來お宿ゆ。奴家の道具  
告まつて。大江主と申ひ。和子思ひぬが、奴家の兎身の後の跡。母後の政木で候。か  
と云ふ孝嗣を申す。傍りて。原来我の兎身の比大人の夜話。傳せよ。改め。是に廻る。政  
木の御心。何事か。再會を。と。は。訴る親兵衛。城主を知れど。亦奇を。と。尋ね  
呑。鍵。耳。當田下。政木。うち。點頭。又孝嗣。うち。頭。巡回。奴家の兎身と。事の情を。奉  
禁。説明。恥。面見。所。後。兎身。未生以前。奴家の恩園の城内。北杜柄駒。野猪。争  
あ。兎身の年二才の比。奴家。有。身。幼。と。あ。孝嗣。兎身の。大き。權。位。守。如。大人の。生。え。思。想。を。忠。き。  
士。や。當時。忍。國。城。頭。で。ア。ヒ。ト。那。城。内。ニ。在。く。又。兎身。母。慈。非。深。一。孝。が  
本。性。良。い。と。渴。く。思。ふ。同。奴。家。北。杜。ノ。ア。家。小。富。未。生。筆。貞。子。の。て。人。之。を。禪。也。が。  
奴。家。ハ。开。里。ア。子。と。庄。不。及。も。時。又。河。難。の。家。の。若。童。ハ。小。植。田。和。奈。三。と。喰。做。セ。ア。る。の。

性。酷。残。忍。か。殺。生。て。好。い。う。もの。年。兎。身。の。食。を。守。如。大。人。の。君。命。は。京。都。將。軍。  
家。へ。兎。僕。を。あ。し。五。那。和。奈。と。政。木。と。喰。做。と。兎。身。の。慄。む。と。幾。の。間。小。密。通。せ。あ。る。  
小。有。一。件。の。和。木。と。鈴。渾。の。地。龍。合。牙。合。よ。と。心。と。庭。す。印。寺。の。庭。の。足。  
跡。と。見。う。と。遠。足。跡。ハ。猫。大。如。狗。大。如。ハ。亦。像。小。人。這。頭。ハ。猫。の。穴。あ。と。开。通。い  
路。ス。ト。あ。ん。ま。と。ヨ。罕。思。と。そ。と。あ。日。の。の。鈴。肌。と。麻。油。と。蒸。と。甲。衣。と。庭。す。猫。の。足。  
根。と。小。金。雄。根。と。相。く。猿。と。か。も。と。金。白。生。の。悲。い。け。ん。の。香。と。根。と。心。惑。ひ。と。愈。を  
求。獵。程。と。我。子。獵。の。元。と。在。る。鳴。聲。と。漫。生。と。原。来。み。の。筆。貞。子。の。下。の。極。る。獵。の。元。  
あ。け。と。獵。出。と。射。て。金。金。と。四。馬。喧。が。准。備。と。志。勝。と。兎。身。の。奶。の。罗。布。而。て。

卷之二

便





山豪

冷柳やかにすも我面影の星うーと怪しと思ひひん次の間を在る大人を連うよ囁キ。雲  
峯よ是齋セ波多々の頬の狗鬼の像也。夜啼きと鳴き聲の奴家が宿耳ト今。駭見く。一宴時も櫛を鉢まや我ハ我ウ本形と顯りかと思へる。休庭。走り覗きよ邊もるれも別の悲む。日の暮るゝま前裁。樹蔭下駄  
在り。守り大人も件の奇異で齋とあはれ。驚怪して大さきを原來政木を野  
狹き。あのま未和。我子を守る月セ。口を喰はれ。ひのうえ人知れ。武士  
あるの。畜生の乳。その子を云月。口を喰はれん。此上るに蓋て。外とへど  
奴婢们と隣。敬言め。の明の日。政木が保人某ひと。よせ。昨日政木ハ逐電。

まめのう。金田生の死れより。五年と云月。子は。とくに。人間へ。此上。また。蓋。秋。口外。そべて。と  
奴婢。門と隣。敬。言。め。え。明の日。政木。保人。某。ひと。召。よせ。昨日。政木。逐電。を  
ア。悉。と。別。花。古。幸。み。一。往。方。と。索。見。出。あ。が。わ。ま。と。の。三。ロ。テ。リ。この餘の  
義。や。及。れ。ど。和。子。五。才。十。月。之。入。ハ。妹。母。き。す。す。あ。べ。と。も。先。女。と。守。母。隸。多。い。久。後  
私。の。ち。の。ひ。と。そ。む。の。ち。そ。ひ。の。め。と。我。子。の。與。乳。が。と。く。人。薦。れ。と。も。後。妻。と。取。ら。と。艱。まで。在。一。ち。余。程。よ。と。新。め。冬。

奥詠の先嘗黒日木丙病死とれハ扇谷殿守ゆと。开う迹役立成。是へう字  
如大人ハ五十子の城ヲ召れ。即首ミ移り住多ハ奴家ハ懇々す。和すと見まく故よ路  
近ノ所思ふ。儘せモ不候。さすうす。姑忍。國を立去く。上野の厚。獨居。あ時  
奴家をす。身ハ幸ひ。命長く。數百年と歴。夜。靈。狐。功徳。通力。も  
亦殊々。特。殘忍の人。殺され。我ハ威程。怨。久。復。折詭。きよ。と下す。  
和奈ニ政术。害。也。事。遠莫。不良の人。世。萬物。靈。身。生。也。仇。謀  
天。贖。死地。人。畜。畜。卑。差別。意。對。心。義。我。愆。す。か。ぞ。今。然。  
や。佛。す。憎。我。身。天。冥。罰。怕。一。集。罪。障。重。け。今。う。答。脣。  
功德。積。世。善。入。人の。渠。善。と。能。セ。モ。力。が。願。成就。の。日。か。ど。深。念。あ。齋。と  
固。め。り。う。考。ふ。遠。上。野。の。原。昔。う。て。人。鵠。死。出。小。屋。を。じ。め。と。み。れ。が。三。伏。  
景。熟。れ。又。金。冬。の。寒。行。時。旅。客。寒。暑。者。堪。難。死。元。至。み。う。な。方。を。

警戒者より並りに這里へ茶店にて肆す。往復人の便りが増むるや年暮れを以て。  
元日毎夜獲物茶錢にて見或は寒民の餓も施す。又這頃も満廬東の村損ひ  
存あて在れ。奴家情地を獨ぞ架え。人の便宜させざり。或は男女の情死と制め。意見で  
いまひと。是き。今か。もの。こんまう。もと。の。まこと。みそ。の。ちを  
アス參と論く。故へ收り。も。事。を。成。ハ。困。大。船。至。極。も。縛。れ。を。欲。す。者。身。を。湘。川。上。投。し。か  
ゆ。て。枚。を。錢。貰。し。且。生。活。の。便。宣。副。論。を。を。宅。眷。と。養。食。せ。り。が。直。寔。と。轉。て。歡。び。と。故  
事。を。起。け。る。の。日。ち。今。よ。近。く。二。十。音。年。人。の。心。元。を。救。い  
る。九百九十九名。よ。づ。あ。天。恩。と。稱。ひ。故。然。身。を。年。々。白。く。う。く。る。の。清。空。雪。の  
皆。惡。狼。と。ミ。恩。と。開。ハ。基。一。說。并。さ。九。尾。の。狐。ハ。神。獸。ニ。又。九。星。丸。ニ。稱。す。も。  
瑞。應。編。ニ。明。文。多。段。成。式。が。酉。陽。雜。俎。ニ。天。狐。と。り。九。尾。を。日。月。宮。よ。來。往。一  
き。陰。陽。ニ。洞。建。一。千里。外。の。事。を。知。る。天。眼。通。ニ。有。る。之。奴。家。も。修。行。の。計。思。ふ。因。す。

稍。の。數。合。名。白。毛。九。尾。の。形。と。備。天。眼。通。所。す。五。千。の。城。と。主。の。食。々  
守。ゆ。大人。今。正。月。廿。一。日。み。免。れ。と。尾。の。折。奴。家。み。義。と。知。り。す。故。の。ま。く。思。ひ。が。る。  
命。數。既。既。候。り。定。業。き。と。罪。行。ハ。先。本。意。を。き。の。三。う。不。探。ホ。又。犯。身。又。汗。黨。ハ。  
毒。惡。誑。詐。す。中。れ。々。寃。辱。罪。元。を。促。れ。白。双。頭。よ。蘆。む。至。り。今。日。我。和。子。の。犯。を。殺。  
ひ。て。仰。き。の。無。因。由。ハ。始。め。終。り。年。來。微。す。我。陰。德。も。穴。エ。モ。や。る。ん。と。尋。思。る。  
這。頃。子。母。の。御。成。就。の。所。の。書。字。百。三。か。せ。ま。和。モ。秋。す。舊。國。を。答。修。す。一。車。而。用。り。と  
新。く。だ。か。と。情。れ。告。長。詩。入。話。て。孝。嗣。つ。く。听。果。と。感。深。坐。よ。吐。ま。と。一。重。時。が。故。に  
少。な。殺。食。す。ぬ。因。縁。都。さ。か。の。如。然。が。年。未。人。の。犯。を。殺。ひ。裏。ハ。九。百。三。か。今。一。人。が  
死。み。か。し。じ。と。が。ゆ。ぎ。  
千。字。滿。古。志。願。成。就。の。所。の。書。字。百。三。か。せ。ま。和。モ。秋。す。舊。國。を。答。修。す。一。車。而。用。り。と  
新。く。だ。か。と。情。れ。告。長。詩。入。話。て。孝。嗣。つ。く。听。果。と。感。深。坐。よ。吐。ま。と。一。重。時。が。故。に  
少。な。殺。食。す。ぬ。因。縁。都。さ。か。の。如。然。が。年。未。人。の。犯。を。殺。ひ。裏。ハ。九。百。三。か。今。一。人。が  
死。み。か。し。じ。と。が。ゆ。ぎ。



メテ  
主よ  
恩スル

敬。す。奪。か。て。收。り。置。る。と。お。頃。い。ま。と。て。竊。盜。の。所。か。よ。仰。す。と。い。ま。の。心。か。も。然。す。仰。更。き。死。故。と。ゆ。親。兵。衛。又。頭。を。耳。新。き。論。辨。分。明。理。方。を。と。く。と。言。い。唄。仰。及。定。及。ぎ。そ。と。譽。を。政。木。の。推。舉。す。と。然。を。宣。ひ。そ。妙。家。ハ。知。れ。り。丸。身。ハ。世。界。十。人。と。見。大。高。隨。一。人。神。其。宣。助。と。成。長。を。嘗。奇。童。を。見。た。と。ハ。猶。ひ。而。禱。ひ。り。折。奴。家。ハ。不。猜。と。ち。然。ハ。丸。身。の。懷。あ。天。地。の。間。と。面。箇。と。ゆ。と。仁。宇。の。靈。玉。め。九。庸。の。野。狹。す。と。非。如。長。壹。同。と。有。も。く。と。ゆ。極。向。り。の。ゆ。と。克。ハ。本。形。と。頭。互。不。身。の。事。ひ。と。ゆ。ある。既。小。雷。風。の。敷。よ。方。向。ふ。む。毫。毛。中。邪。是。る。是。る。證。據。で。竹。め。あれ。と。も。丸。身。の。來。歴。と。ま。日。暮。天。考。序。方。向。不。忍。り。池。畔。と。河。蟹。腋。子。と。徳。と。丸。身。の。事。の。顛。末。と。解。井。の。事。を。少。知。り。ま。と。憑。と。思。ふ。情。地。と。安。房。上。總。き。城。隍。土。神。達。と。招。よ。や。す。か。里。の。安。否。と。同。試。る。又。も。わ。ざ。異。い。變。あ。う。丸。身。の。ま。と。知。り。あ。ひ。と。と。ゆ。親。兵。衛。登。鬼。と。放。ち。と。开。を。何。事。が。い。ま。と。知。る。快。う。も。年。ね。亦。ま。く。ほ。と。向。へ。が。考。て。然。ハ。と。よ。え。身。が。

主君と疑ひ猶可よ遊歴の暇と賜ひ一之主系より邪魔居て爲へか。又故に首株を  
と逆將軍董田素藤は妖尼妙椿が帮助といひて夜館山の城にて襲畠ノリの折城の頭人  
す。登桐山八良干も生拘れ。田範戸賀九郎逸時と竹屋八郎景能は敵の曲と發用  
卒。徳也他郷へ走り事。是より里見殿は荒川兵庫助清澄と討隊の大將とす。館  
山の城を攻め其の哥妙椿が幻術を施す。魔鬼風と起り寄隊を破り浦安牛助友勝少将  
す。是より荒川清澄は埋兵をす。夜盡の先當。礪時頼八奥利浪之介と生拘  
す。又妙椿が幻術を用ひ二敗を騙る事。その後荒磯南弥六を安西出来と相地す  
。妙椿は素性脛を刺んと。敵城より戦没せり事。而して又里見殿は日暮不才と確  
措せ。親兵衛にまつて清澄より貸んと。穿出をひよ瓶のこあく玉のなれが夏の物で  
心醒て後悔のべあり。又妙椿が稻村の城を脩め、満路姫と接觸ひ走り去りヤ  
ミ。○要旨  
口ひき。伏距の神靈の妙椿と戰ふを時富山火を起す。火をもる秋葉の火及假名鬼と竟魂の事。親

二月廿七日 稿了四月曆

卷四〇 本文十五目

けやくすまつらにまつらふ。かくのをやうあてへと

一月二十七日

卷一百一十七  
恩子答化龍升天示子  
事記  
大聖風濤懶也

之見れども、雪の嶺號雪の邊に逢ふ。又、竹山より赴江を先徒と遠き計捕る。もとあれハ  
比素藤と思被の折、無の處から意見て、薦て死刑と薦め宣示たり。西家單より  
謀セ石く素藤復廢をあがめ人みな信らモ小臣立地は誅戮し。と宣示去る。  
又、我君も脅く恩食けよ。粗鄙をと人ひがれやせん哉。亦殆ど素藤復廢也。  
愚才不肖也。餓もまた逆賊と誤る。仁は克ツ過主家長久の基と固くせん。  
為て伏神の訓よ蘇れり。开と世人の思ひて、虎侯はゆえ親兵衛と那奴尼。  
方すと狂されか。似而非仁政をと今や。請うもまかん。仁者の眞面目をもはん。  
かく。膽談あれ。塞よ城るみ起れども恩て思ひ再發た。素藤が憐れまゆ。ア  
せん。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。  
先度の顛よか。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。おどる。  
心再度おきて。鏡つくる。旅を退て一虎の金嘆びを屠る。仁者とよき忍みへども。  
綻素藤先度お倍り。おお千百人皆罷るとも又活きて捉る。靈衣の物と様子易

多和殿一辯の力を勧める義徳の意あり。又平の伴にてとつれて孝嗣一説を及  
び。遂要を辨才智は雪。金玉成を言。毎度威服せり。とて。小生既に知已の資を  
御す。進退を儀。全欲を以て歸。水を没。至ても往々や惧。身と惱。政事へ推移。  
まもんへ至。又親兵衛。向ひ。嘯大江主。從。兵卒。ヨラ。身。那。里。到。る。な。  
素。藤。仰。先。度。ニ。徳。ア。ミ。テ。上。を。御。ス。ク。ん。か。妙。椿。ハ。同。ト。か。モ。他。モ。亦。靈。玉。又  
智。敵。モ。ト。ス。キ。ト。モ。暴。ト。駆。一。跡。を。埋。め。風。の。洞。の。底。を。如。く。忽。然。ト。ア。達。  
る。ニ。智。曾。モ。施。モ。所。あ。く。又。收。聲。モ。遠。モ。と。あ。ん。遠。義。成。モ。思。ひ。ゆ。が。モ。や。と。心。屬。れ。ぞ。  
親。兵。衛。ハ。答。難。ツ。深。崎。七。現。い。る。れ。か。寛。是。五。余。五。碑。ハ。ニ。百。六。碑。半。東。日。よ。ス。キ。  
敵。を。と。む。敵。を。捕。る。よ。の。か。も。あ。よ。他。倘。立。遁。御。を。と。ある。又。え。ど。争。ハ。事。何。か。せん。  
方。と。禁。御。を。と。や。ヒ。ヘ。政。木。ハ。黙。頭。て。禁。が。と。よ。そ。の。す。れ。オ。ガ。不。才。も。人。ハ。各。  
欲。を。も。得。ふ。と。事。あ。う。もの。故。孔。子。聖。人。の。錦。壇。フ。テ。役。ハ。も。老。圃。一。向。ヒ。宣。す。

李元和と云ふ。かの事よりが、夢の事。かの事よりが、夢の事。  
李元和助言の鳥許。竜の路。蛇を却。那妙橋が幻術で碎く。捨てて散せぬ。  
李元和は死んだ。李元和が、親兵衛がびくしまで亦死んだ。称説をん快。  
先代の末歴坐。久々に具を知。あべ度もどりふ。親兵衛がびくしまで亦死んだ。称説をん快。  
听まし歎されと心て膝で残也。老鼠。おもむ含笑にて恨み直を傾け。登時政木の聲で  
僕のそ禁よ。又一條の音詰。未だ。大江主の隠れ。柳安房の廻。  
未だのよう。とす。うと。程遠く。村屋。大野と喰做せ。宴。村。あ村。這名。各々  
長野郡。富山の麓。ち。程遠く。村屋。大野と喰做せ。宴。村。あ村。這名。各々  
い。一ノ明。文安四年丁卯の秋。伏姫七歳。と。あた。安田。き。比。伏。村。食した民。の。す。  
伏。伏。と。嘸。す。か。年。未。畜。け。北。狗。す。か。這。秋。の。狗。兒。子。と。産。け。ふ。一。隻。す。す。伏。  
伏。年。と。嘸。す。か。年。未。畜。け。北。狗。す。か。這。秋。の。狗。兒。子。と。産。け。ふ。一。隻。す。す。伏。  
伏。伏。と。嘸。す。か。年。未。畜。け。北。狗。す。か。這。秋。の。狗。兒。子。と。産。け。ふ。一。隻。す。す。伏。  
蒙々と。此。免。が。養。食。よ。く。ゆ。め。伏。一。奇。一。伏。夜。毎。伏。北。狸。の。畜。當。方。す。伏。伏。氣。免。  
離。狗。と。す。か。年。未。畜。け。北。狗。す。か。這。秋。の。狗。兒。子。と。産。け。ふ。一。隻。す。す。伏。  
実。主。の。寵。美。食。を。れ。八。房。の。大。即。是。す。か。年。未。畜。け。北。狗。す。か。這。秋。の。狗。兒。子。と。産。け。ふ。一。隻。す。す。伏。

されば空見ニ害あらむなりと役行者の利益を玉梓へ思是終ニ解脫す。  
八房の大も亦伏姫讀經の功德ニより。但ニ苦提ス。めり初八房の大を字ニ  
名。程見モ亦玉梓の餘菴寅縁リ。是の事。得脱セ。今空見壁卷  
ゆう。當初義実主八房の大を見玉の折狸兒乳を。養化する事徳々と所玉ひ  
トキ。大之を。程愛。狸の事ハ竟モ同れモ。狸見亦此功。瓶モ先祠と造リ。ト  
之大之を。程愛。狸の事ハ竟モ同れモ。狸見亦此功。瓶モ先祠と造リ。ト  
祭丸を。程愛。是然る。嘸醤。堪モ。モ。官山を立モ。上總。因。堺。酒郡。普  
善村。程遠。謙訪の神の社頭。老樟樹の檼。松ひて。那里。宿因の恩  
ま復。宣。因。主。御。父子。出家。松。而。程。玉梓。餘菴。葛。是宿因の恩  
心。而。暮。四。素。藤。而。程。玉梓。餘菴。葛。是宿因の恩  
馬。八。比。丘。尼。緋。號。冒。妙。簪。女。僧。変。化。遂。素。服。哄。誘。

做をゆ。這大一日貉と見て立地。嘆殺あつよ。みの貉の腰内。八尺瓊の命玉あつた。  
雍毛龍裝の毛りと。手口。玉と朝廷と獻りぬ。這玉人テ。石上の神宮。あつとす。  
古紀垂仁紀。載られ。無仁帝の元時。今後土門陵。未至。千二百許年。世戰國。小  
き。悲。さよ鶴。殊奇の神宝。馬蹄の塵。埋ま。有と知る人稀。り。よ歩稽。  
又。雍毛龍裝の毛り。貉と狸等類也。穴居して雨と避け。風と智者。是日も今も。大  
鍛。西の吹草。角ひ。風と生。方理。よ。媚替。件の毛り。兒文。唱。勁風。と。  
起。毛。極。氣。擊。毛。瘞。莫。那。身。貉。等。一。狸。児。也。忌。と。七八。足。往。の  
犬。毛。穀。毛。貉。の。腹。毛。牛。玉。鳥。目。毛。次。發。寄。隊。破。玉。見。毛。毛。後。章。毛。犬  
毛。對。治。毛。毛。北。毛。毛。懷。毛。や。寔。毛。鳴。呼。毛。之。本。然。毛。狸。見。毛。智。陵。毛。野。狗。毛。冬  
候。毛。是。多。毛。由。毛。知。花。候。毛。他。對。治。一。件。毛。王。毛。獲。毛。後。毛。宵。毛。之。本。毛。

一  
修羅合戦

今ハ開ヒ

周ノムニサヘテアリ妙極が未至也。此の度畧毛野人、松入館山の城ニシテハ、御度  
ト同トガセト非物兒身ノ武勇アリ。素盞嗚神ハ締伸易くともモモヤ妙椿子知  
ル。他と走リテ見事何。見侍。爾處處アリセド。梢ノ木也。館山の城の  
留ノ木首様の目標を其外昔の城主が地道を穿り造立。一條の脇路之後千曳の石す。前築  
アリ。のちノ木首様の目標を其外昔の城主が地道を穿り造立。一條の脇路之後千曳の石す。前築  
口セ寒風也。火具が萬夫ノ脅力アリ。も合ひ隊々の客房か。ト。其目アレアんと破る折  
筋様もと倣ひあは。古モア筋力と用ひて。生入極モ隨意。先後堂モ起す。  
妙椿狸見。又檜見。もカク。征之。ノ。折者節様。住キ。モ倣。妙椿  
金葉。又地破化。腹心。又黄縁。又玉株。驚鬼解脱。元無。ど。又妙椿。根  
邪術。又地破化。腹心。又黄縁。又玉株。驚鬼解脱。元無。ど。又妙椿。根  
朽木の倒ミ像。く本形。ト。ハモ。一。則是玉椿。然の事。三三重。生ケ。安里。  
似く減セ。後多。す。崇良。是。医證。據。尔。併。發行。者。の。利。益。小。廣。也。ナ。人。冥。助。也。  
佛。だ。之。ア。の。露。の。引。出。所。ナ。火。火。身。の。智。計。武。勇。ア。シ。功。あ。ル。正。疑。ヒ。キ。ト。ソ。親。

兵衛。う。聞く。且。底。一。且。殺。ノ。男。氣。日。脣。ノ。脣。増。ノ。脣。と。憶。ぞ。振。す。寔。子。内  
か。ん。有。縁。の。虫。害。モ。櫻。香。一。隱。微。モ。明。氣。モ。管。意。表。モ。生。き。と。聞く。我。身。ハ。今。冬。富。山。ニ。在。モ。伏。瓶  
ミ。能。言。す。ウ。テ。又。神。の。示。現。教。諭。義。義。軍。軍。モ。老。嫗。ハ。素。是。異。類。と。み。モ。ア。高。廣。大。古。世。也。也。  
只。モ。趣。さ。ろ。向。す。謹。ノ。明。教。モ。程。ざ。ん。や。従。べ。ト。ツ。ハ。又。孝。嗣。モ。政。李。老。嫗。モ。う。  
向。ひ。す。と。與。る。敵。地。の。案。外。備。周。サ。我。カ。亦。大。江。主。モ。保。フ。モ。千。里。セ。走。若。蒼。蠶。  
驥。屋。モ。附。モ。す。功。モ。ハ。又。カ。ハ。ま。ト。厭。少。の。程。モ。多。ね。か。ト。尔。モ。政。木。ナ。ア。レ。モ。  
否。ト。よ。牧。家。ハ。年。末。の。陰。徳。の。功。課。モ。ア。天。帝。の。恩。教。モ。美。う。け。ナ。う。獅。龍。モ。做。れ。也。  
空。音。も。今。升。天。一。て。下。界。モ。在。モ。遇。ば。と。別。れ。時。未。早。レ。と。告。モ。お。嗣。モ。う。ね。ど。什。磨。獅。龍。モ。  
何。ち。の。り。モ。獅。カ。恐。モ。傳。モ。シ。カ。ト。同。ハ。又。親。兵。備。モ。但。モ。君。根。モ。ラ。聾。リ。モ。我。周。モ。龍。モ。  
神。物。人。知。漢。今。昔。世。の。人。モ。多。の。事。モ。知。れ。モ。如。形。モ。見。也。然。モ。唐。山。の。史。傳。ア。昔。秦。範。氏。モ。  
龍。モ。覺。リ。翠。モ。龍。モ。身。モ。知。リ。是。ア。ム。抱。朴。子。モ。蛇。龍。モ。一。種。モ。死。モ。千。載。モ。

蜥蜴

屏風の化く龍の做がれと陸佃、堺雅子非と辨ちる龍のアト龍よ  
そと蛇へあつて蛇へ化く做すハ真龍をすと开て亦稱て龍と云ふ例言う。と  
さう因て我仁梅もよへやの人の龍とのハ素う是一物すかモ星て龍と一馬等亦龍  
と稱へ蛟虬、蛇蜥蜴ありて、變化の種類あれど、真龍と云ふと眞の龍をひらめ益  
星與ども不底。勿論形状あるて、飲食まゝのゆき。天地陰陽二氣の升降雲起し雨を  
降一春日見せ冬に蟄も見て名づく龍と云和名又豆ヒガ起の辰モニシテ發起を  
生す。よしあはる事無き世の龍といふ。蛟虬、蛇蜥蜴などの種類の、真の龍をひらめ  
されど、蛟虬、蛇の老古の形狀画る龍。是等眞裏の龍をひらめ。化く龍よ  
傳す。據る奉り。故に又類々化して龍を云ふ。説の酒家寅方剛。元々  
教士す。同へ政木の黙頭で現たる龍の丸説。古人未發の明辨をて字を悉く  
醒を足す。大家が龍と云ふ名が同うある。物異て、眞の龍と云ふ。陰陽二氣の從

多く雲と云ひ雨を行ふ然らずの能い風へ。然るて、狐の云形狀毫毛龍と似ざれ  
と。狹龍の説と疑ひえ。憚り多き親を信す。疎を非とす。身毛と毛の壁言ハ田鼠と  
鷦と禽獸の差別を云ふ。狀も大く異れ。と。田鼠化して蟹。と。蟹化して蟹。と。蟹  
文柄豪と螢火との非情有情の差別あり。形の似てもあらねど、膚革化して蟹よ  
る。と。狐龍も亦それと同ト。證文をみて讀む。貯鳥許をへせれと。听ひひねと。餘言  
を悉く持去れ。と。下す。と。後を持去れ。と。事記。曰。驪山の下す。一白龍。有り。常は山下。驚撻者人極  
く。山下の人白龍の山辟と鼎。膽を取る。如此之事三年り。と。勿少一光天雨。臨  
夜。山の云間。哭けり人。聞く。故と同へ。老父答。我狐龍死。かん故と哭く。余  
と。父を何と狐龍に。と。老父。亦何の故。夜毎。哭く。と。同へ。老父。

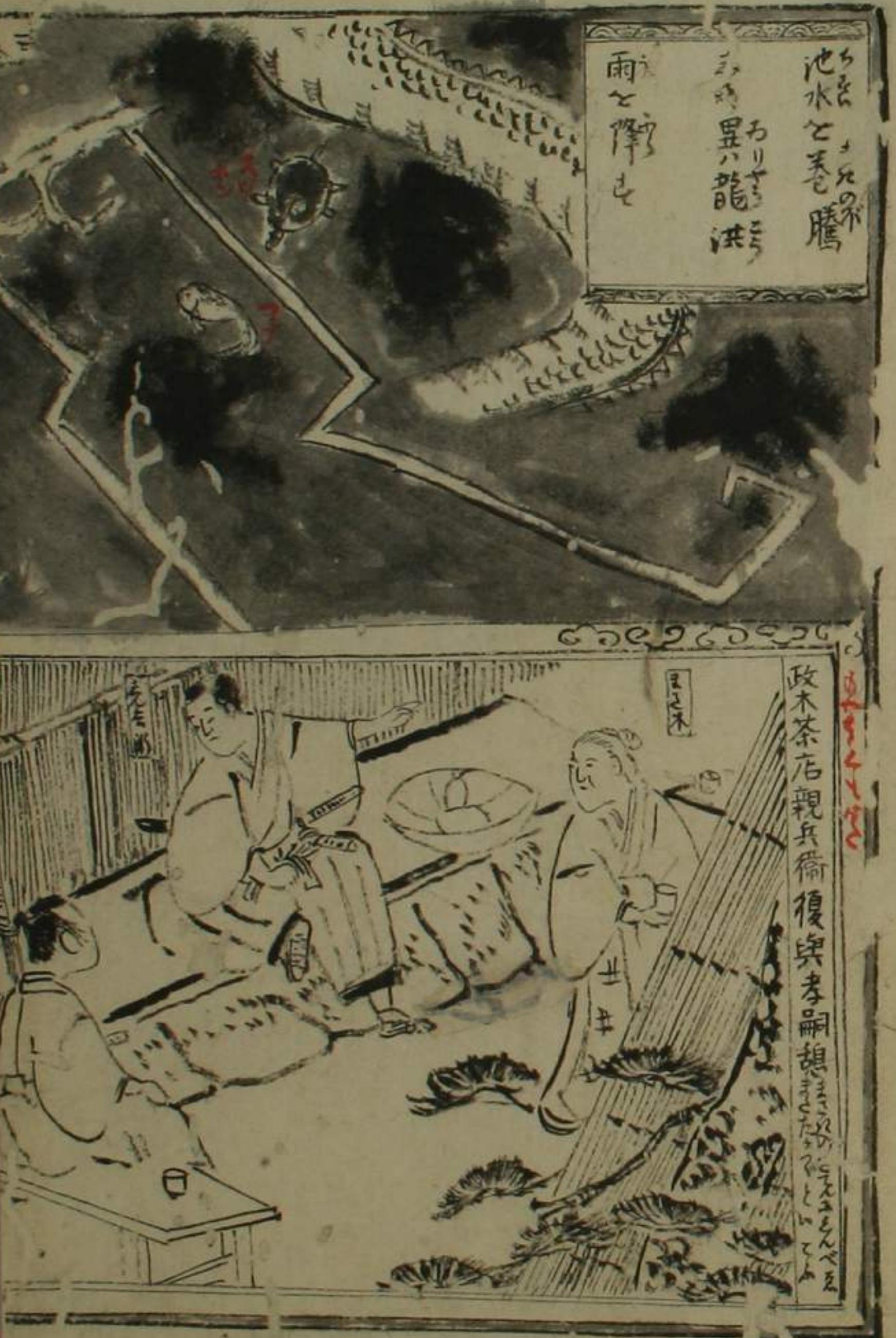
答。狛龍の身瓶なり。龍は亦變化して三年で死を我の狛龍の  
事と人又曰。狛何能化。龍云能化。といへ。老父。此狛。  
西方の生れと雲々生れを因て全身白色。衆と遊ぶ。近處の狛と居て驥  
山の下に託す。千餘年後。偶雌龍と合て上天され。遂に命く  
龍。為せ。亦猶人間の凡夫也。聖人よ成る。と。聖。と。謂  
記の隨誦。音聲清亮。理義分明。すえり。

作者曰。狛龍の事。拾遺鏡原卷の八十八。獸類。狛怪の部。又奇車記と搜く。  
あれと載す。作者の作り設け。昔。和漢の博士。龍と辨する者。是れ。至  
と。狛龍と及び。と見ざ。故。も。借用。も。看官原文。と。知。も。あ。が。複。丘。一。見。す。  
當時。大江親兵衛の孝嗣と。共。宿。も。ひ。と。所。果。へ。且。差。且。殺。と。政木の光。爐。と。厚。  
之。名。一。ト。一。多。う。今。ひ。ま。わ。き。と。博。識。視。聽。そ  
ひ。賢。者。一。テ。の。師。す。も。多。用。思。を。今。海。の。系。是。異。類。と。博。識。視。聽。そ

驚。我。及。未。か。又。逢。日。あ。が。詞敵。セ。ま。く。ほ。た。の。今。遇。そ。今。中  
別。別。而。遇。す。手。と。す。薄。縁。と。い。と。慨。一。不。釋。伏。俱。不。孝。嗣。カ。懲。然。と。嗟  
歎。一。と。昔。ハ。姉。母。假。手。主。從。け。又。我。再。生。の。因。人。よ。思。ひ。ゆ。あ。寂。ぐ。い。ふ。だ  
か。の。畫。よ。一。書。值。遇。の。縁。留。る。難。ク。哀。別。の。波。の。雨。と。雪。と。よ。龍。と。身。  
做。一。果。す。千。玉。翠。底。成。す。大。洋。と。潛。る。も。後。長。く。久。命。三。卷。と。祭。る。ま。ぐ。尚。忘。れ  
し。春。秋。の。折。と。毎。お。訪。ま。か。悲。れ。う。と。も。勧。け。ハ。政。本。の。を。慰。難。く。一。西。夢。時  
目。水。と。洗。衣。の。神。と。歎。め。と。層。と。書。と。め。と。び。家。と。與。一。か。今。大。き。く。三。卷。後  
急。那。明。君。王。位。を。食。名。を。守。算。よ。説。と。れ。と。ゆ。び。家。と。與。一。か。今。大。き。く。三。卷。後  
大。江。主。と。往。く。ち。月。七。個。の。俊。傑。と。友。頃。結。ひ。帮。助。と。ゆ。仁。義。德。澤。せ。稀。  
1. 楠。根。固。夷。隋。郡。雜。色。村。と。石。降。り。く。石。形。か。蟠。る。龍。と。似。と。見。ゆ。い。若。處。果。と  
奈。代。處。つ。大。江。親。兵。衛。す。す。され。れ。れ。神。の。じ。と。過。往。向。胆。の。心。足。と。も。

火事者 ひうちの者 たり後で と林とす。 そりうて 道文の方を進むてひねが 今へ時ま。 まうと おう外へ走る。 まう松枝すと樹け周と立候と見られば 非ぶ鳥の名残階。 ほんとおう外へ走る。 まう松枝すと樹け周と立候と見られば 非ぶ鳥の身と翔く。 まう程近くぬ不思の池へ來と跳下す。 時と雪薄た雨降る。 まう風と天地と東と黑白と別改震動雷電 常眉と似る。 中と龍火の光と向上し。 まう白龍と雪月と顕れ。 まう首と伸ら尾と垂れ。 まう巻を腰を池水の雨とゆく。 疾火等ひよ蓮葉断離。 まう細舞放下され。 足下と踊るも。 まうお折親兵衛と孝扇。 まう狂風暴雨と光暉。 まう茶店の良善。 まう登天見。 まう茶器。 まう東西一箇のう吹櫻にて雨と満月と松の梅竹。 まう身を倚せ。 まう側に霧月と。 まう奇しく最も劇大の月と。 まう松の四下の。 まう一滴。 まうす。 まうされば幸ひうと隠かで。 まう衣も濕れ。 まう寝れ。 まうお折親兵衛と孝扇。 まう狂風暴雨と光暉。 まう茶店の良善。 まう登天見。 まう茶器。 まう東西一箇のう吹櫻にて雨と満月と松の梅竹。 まう夕陽西と。 まう残照。 まう然。 まう親兵衛と孝扇。 まう孤龍の奇特。 まう凝ひ釋ひ。 まう迷す。 まう喧と。 まう路の

○二七



乾くと等程は親兵備儀とアリテ、嘯河鯉生剛才化龍の弁天を觀て、思合を  
転す。昔年嘉吉に、馬軍破れ、結城の城郭没落の折我老猿義朝臣當時、  
尚弱冠す。里見又太郎と喰れひが、送訓と從ひ、九死と。戊午貞元主従ニ騎守  
房で役す。走りて程々落城す。第三日の黄昏時、侯相摸國脚浦郡前林陣、舟と船と  
討りて津茎をひび折白龍海底うち頭に上り、南と西と騰り去り。徳る祥瑞矣。尔  
義実安房を起し、日もあらう。神籠が與よ義兵を聚合して、蓮臣山下  
を攻め立と謀戮す。先後朝夷郡平館を、麻呂小五郎兵備信時が約よ北背弓を  
えらひ。討夷げ最後の安房郡館山の城主を、安西。  
宿題と、景連と戰克す。景連頭  
領と、援け、義実守身と平均す。四郡の主よ、ゆひひ。  
家富山より、伏姫神の示現。粗末とて、有様か。今我代  
殿す。自らの狐龍の舟と目えます。且久龍と辨論あけむ。お曾君臣一



是同じ。

物語。日義実朝臣の前幕。龍の舟天とえりに嘉吉元年四月十八日の  
事。とくに。また改め又我們う獵龍を見一へ今田文明十五年四月中の二日とみ日ハ駆ニヘレ。  
芦。中旬を。又月ハ同上。又暗合是のとすと。晉年。我老侯の討滅。ひし。安西三郎大夫  
景連。ハ安房の鎧山の城主。今ハ恩臣。大江親兵衛。討累。まく。安西三郎大夫  
暮。出素サ膳。上總國夷隅。鎧山の城。在リ。安房と上總と異名。も共ニ鎧山と  
名。鎧山の名も亦同ト。給て思ひ恰セ。ハ造化の黒對。より。事吉兆と云。モ  
免。兩國。阿。快退。度。船。セ。突。ア。上總。渡。えん。和殿。音。見。甚。意。が。と。石。ヘ。ハ  
考。再議。及。等。所。所。前後。同端。討論考寔。小。あ。而。達。圓。大功。疑。ひ  
至。卒。之。便。い。そ。ス。と。東。と。放。一。そ。立。生。け。余。程。ヨ。大江親兵衛。ハ。考。而。相。伴  
あ。而。國。河原。へ。赴。く。往。一。里。雨。の。ゆ。ま。よ。行。太。地。乾。隨。マ。歩。運。ひ。隠。り  
五。花。思。ひ。よ。う。の。手。來。よ。故。ら。日。長。四。月。天。ハ。暮。春。と。ま。暮。日。駆。ニ。ヘ。レ。

只一瞬見たり。二箇の眺望方因て土人字す。三觀自異と唱へり。鼻ノ昂方吉子。西出と  
然る。然る。山峰。千里鏡。宿。茶店。飯。酒。營。小店。自遊。自遊。自遊。  
熱闘。折。人許。五聚。螢。甘。降。像。親兵衛。寺廟。今出。  
崎。宿。開。那。打。汗。立。寧。獨。人。怪。令。找。追。立。見。  
見。主。僕。脅。老。壯。兩。個。飯。而。非。投。人。立。セ。と。見。月。廿。三。買。不。旅。經。紀。  
年。六。十。多。年。と。又。東。人。年。歲。千。有。餘。り。從。廣。下。主。僕。  
但。遠。山。形。る。深。木。浦。の。夾。夜。被。世。帶。白。榜。續。鼻。禪。向。緊。引。續。之。  
說。足。驥。李。王。化。畫。土。芭。像。傳。天。朝。捕。力。鼻。禪。宿。補。家。祝。神。方。樓。傷。折。  
損。揭。瘻。弊。茅。薪。野。上。風。相。傳。精。割。二。言。寫。形。榜。號。招牌。夏。沙。地。  
推。植。草。寄。喜。八。多。畢。竟。這。遊。旅。經。紀。人。愁。地。人。禱。甚。於。做。難。難。

萬總里見八大傳卷十三之十四終

天保七年春二月四日本文廿四張書風共稿成  
同年九月十七日序目篇傳之又七張稿了

著化堂子言

筆 福 観 李  
才 士 利 序